

家庭科授業力を育成する模擬授業の効果に関する検討

山口 明美

I. はじめに

「指導力不足」の認定に関する一定の基準化は、2009年の「指導が不適切であると認定した教諭」（1949年教育公務員特例法第25条）に関する指導研修の規定が改正、法制化にある。その結果、教職大学院制度の開設、教育指導免許法改正における免許更新講習、教職実践演習の創設などの様々な制度基準が行われるに至った。つまり、個々人に「実践指導力」が求められていることを意味する。

さらに「実践的指導力」の形成に関して、養成段階（大学）に荷を負わせているのが大である。しかし、土屋氏は^①「教師教育の観点からして『大学における教員養成』に教師の専門的力量、資質向上の責任と評価を求めることは無理がある」と断言している。それは「実践的指導力」とはどのような意味であるのかを問題視すべきであるということになるのであろう。

教職実践演習では、教員として求められる^②4つの事項①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児、児童、生徒理解や学級経営に関する事項、④教科、保育内容等の指導力に関する事項を含めることが適当であること、また、授業内容例として役割演技、事例研究、模擬授業をあげている。一つの側面的な見方であるが、教師の資質に求められる力をこの教職実践演習で形成することを目的としていることが伺える。

本研究では、対象を小学校教師を希望する教育実習未体験の学生とし、教員に求められる資質の④教科、保育内容等の指導力に関する事項に焦点を絞り、その指導力を育成することを検討するものである。

また、家庭科の独自性を理解した上での実践力育成をも検討するものである。なぜなら、一つの事象に対して、多角的、多方面から考え、より良く生きてい

くための力を幼児、児童、生徒自らが体得していく要素の強い教科であるからである。例えば、以下のような例が問題になったことがある。

小学校で、古い卵と新しい卵を見分ける方法を習ったという^③。『…割って黄身が高く盛り上がっているのが新しく、黄身が平べったくなっているのが古いと教わった。そして、後で試験にこれが出た。「図のようなふたつの卵があります。あなたはどちらを食べますか？」その児童は即座に平べったいほうと答えた。クラスメートは全員、盛り上がっているほうに丸をした。正解は盛り上がっているほう。こちらが新しいということであった。生活の中で体得した児童は冷蔵庫から卵をふたつ取り出して、賞味期限に差があれば、まず古いほうから食べるというのがあたりまえと判断し、平べったいほうを正解としたのだった。それがベケにされて、その児童はずいぶんと傷ついたという例である。

この設問では「どちらが新しいですか。」という問いが「あなたはどちらを食べますか？」という問いに、あたりまえのようにスライドさせられている。この問いは設問として孤立していて、なんのために新しいか古いかを調べるのか、それが判ったらじゃあどうするのかというように、日常の生活のうちに位置づけられることがない。この知識は「身につく」ということがないし、使用されもしない。これに対して、先の児童は、はじめからそういう家事の文脈のなかでこの問いをとらえていた。ひとは何を知るべきなのか、何が知るにいたいすることなのか、それを知ることが生きるということにとってどういう意味をもっているのか。

おそらく、この平べったいほうを選んだ児童は、生きていく力や本当の意味での判断力があるのだろう。習ったことそのままの知識を解答に書き写すのではなく、生活の中で自分の得た知識をうまく使って総合的に判断するという能力は、生きていく上でとても大切な能力だ。両方とも食べる。なぜならすでに2つとも割ってしまったからだ。という解答があってもいいとも思う。』

このように、専門的知識はもとより学問の意義、価値を理解した上で、子どもの思考力を育むことが大切である。そのためにも教師自身の複眼的思考力を磨いておく必要があるであろう。

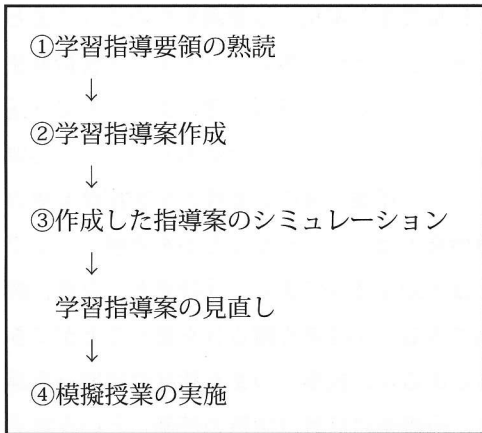
II. 模擬授業の意義

教育実習未体験の学生にとって、模擬授業を実施する意義を次のようにまとめることができる。①教科の特性を知る。②教科で用いられる主な学習指導法を知り、具体的効果が理解できる。③効果的な学習指導形態のあり方を知り活用できる。④児童理解の必要性を知る。⑤オリジナルな授業創りの意味と必要性を確認できる。⑥授業計画を行う上での授業計画の必要性と学習指導要領の意義の確認⑦目標実現を目指す教材研究とはどのようなことかを理解した上での教材研究ができる。⑧良い授業とは何かを体得できる。⑨授業者、児童、教師という三者の立場から授業が体験できる。⑩授業を観る目を養うことができる。授業の捉え方には様々な考え方があるが、授業、つまり教材の研究→指導案の計画→授業の展開（学習の構成）→授業の反省（学習の評価）という考え方が一般的であり、ある意味で一方的な段階であることが多い。しかし、授業は子どもと共に創る授業、教師が子どもから学ぶ授業、さらに私だけのオリジナルな授業を展開する時、教師としての実践的指導力を育成し得るものと考ええる。学生は未だ教育実習の体験はなく、授業とはいかなるものか、どのような授業が“良い授業”と言えるのか、授業を構成するにあたって何を成し、どのような準備を成すべきかなど模索している段階である。模擬授業を通して学問的能力と共に人間力の醸成が必要不可欠であることを認識することができる。教師の資質としての一つの側面にすぎないが授業力を育成する上で大きな意味を持つものと考ええる。

III. 模擬授業の方法

模擬授業の実際が人的条件から一人当たり45分授業を確保することが困難であり、十分に指導経験を保障できない。しかし、すべての学生に教師役を保障することが重要であると考えた。結果、20分の授業を実施することとし、授業の題材は自由選択、20分の授業の扱い方は学生の判断にまかせ、導入から実施しても、展開からまとめに入るのも良いという条件で学生とのコンセンサスが得られた。

模擬授業の流れは次のようなものである。



①学習指導要領の熟読

先ず、学習指導要領から教科に求められている指導内容、方法、要点等を知ることにより、その題材の教材観、児童観、指導観が見えてくる。その意味でここでは、文面の理解を求める。

②学習指導案の作成

学習指導案の基本的な趣旨、作成方法については教授すること

とはもちろんであるが、重要なことはオリジナルな授業創りを行うことである。つまり、脚本家になりきり、私だけのシナリオ作成を試みることを勧め、指導した。そのためには子どもたちの反応や表情を想像しながら、どのような構成がよいのか、ふさわしい発問の仕方とタイミングはどのようなものであったらよいのか、さらに、どのような教具、教材を準備するのが子どもたちの意欲をかきたて、学びたいという思いを育てることができるのかに思いを馳せながら、教師自身が楽しく授業構成を行い、授業創りを行うことを大切にした。また、到達目標を明確にすることを求めた。

③作成した学習指導案のシミュレーション

指導案を作成する学生にとって初めての経験であるため不安も多いようである。そこで、実際に模擬授業を行う前に、机上における授業を実施した。

方法は導入→展開→まとめの流れにそって、今回の授業のめあて、到達目標を明らかにしたうえで、具体的にどのような構成で展開し、発問、板書、教材はどのタイミングで、どのように提示していく予定であるのかをグループ内でシミュレーションを行い、お互いの意見交換をすることにより様々な気付き、アドバイスなどを実際の模擬授業に反映することを目的とした。これにより作成した学習指導案の見直しを行うことができると考えた。

④模擬授業の実施

先に記述したように、すべての学生に授業を実施することを保障するために20分の授業を行った。模擬授業においては授業者・児童・教師という三者の立場から授業を経験し振り返ることができるように心がけた。授業者は20分を大いに活用し、導入から入るもの、展開から入るもの様々であるが、学習指導案や開発した教材を用いた授業を実践する。授業者以外は児童あるいは教師の立場で授業に参加し相互評価を行った。相互評価は次の通りである。

授業担当者名 ()

【各5点満点】

- 1) テーマの設定がおもしろい () 点
- 2) 目標が具体的でわかりやすい () 点
- 3) 教材・教具が工夫されている () 点
- 4) 授業の話し方 () 点
- 5) 授業内容がよく理解できた () 点
- 6) この授業の良いところ
- 7) もう少し改善した方がよいと思うこと

右のような評価表を用い相互評価を行ったが、これは、授業者以外以外の学生が授業を行った者の模擬授業に対して記述式で評価を行うものである。その一方で模擬授業終了後、全員で振り返りを行った。その観点として評価表と重なるが具体的に

①授業の流れや時間配分が

計画通りできたか。

②教材・教具の使用方法は適切であったか。黒板の使い方は適切であったか。

③授業者としての話し方(声の大きさ、話し方、言葉遣い、目線)や態度(身振り、手振りや姿勢の確認)

④学習のめあてが達成できるような授業になっているか。

⑤何よりも学びたい、知りたい、やりたいと思える授業であったか。

以上のような観点で学生同士が意見を交換し、相互の評価をしながら授業を具体的に検討することで「授業を観る目」も鍛えることができると考える。学生の意見交換後、指導者である教員がまとめを行った。また、模擬授業終了後、授業者には全員の記述した評価表と撮影したビデオ(DVD)を視聴してもらい、

各人が授業を振り返り検討することで一連の模擬授業を終了とした。

IV. 模擬授業の効果

全員の模擬授業終了後、次のような質問紙調査を実施した。調査はすべての質問項目において、とてもあてはまる、あてはまる、少しあてはまる、あてはまらないの項目から該当するものを一つ選択してもらい評価を行った。

1. 学習指導案について

質問項目

- ①授業を実施するにあたって、学習指導案作成は重要であることがわかった
- ②学習指導案に題材目標、到達度目標を明確にすることは重要である
- ③学習指導案を作成するにあたり、学習指導要領をよく読むことは大切である
- ④学習指導案作成後のグループでのシミュレーション実施はあった方がよい
- ⑤本時の授業の流れを検討する際、児童の実態や行動、反応等をイメージしながら作成することは大切である

2. 教材研究について

質問項目

- ①教材研究をする際、「何を教えなければならないか」を把握して準備した
- ②教材研究をする際、「どんな力をつけさせるのか」を明確にして準備した
- ③目標を定めたとうえで、「どのように教えていくのか」をイメージしながら教材研究をした
- ④発問・指示・板書・説明など十分吟味した

3. 模擬授業の実際について

質問項目

- ①指導のねらいがはっきりしていることは大切である

- ②題材の目標に迫っていくために、児童の実態に合った適切な学習課題を提示することは必要である
- ③児童の問題意識や多様な考えを生み出すために、学習の流れがわかりやすく、児童に理解できるように計画されていることは大切
- ④児童の関心、意欲を高めるために適切な教師の支援は必要
- ⑤授業を通して児童自ら課題を見つけ、解決していくための力をつけさせることは大切
- ⑥授業の流れや、時間配分の計画をしっかりと立てることは大切
- ⑦授業者としての話し方（声の大きさ、話し方、言葉遣い、目線など）が重要であると思う
- ⑧授業者としての態度（身振り、手振りや姿勢）は、児童に影響を与える要因になると思う

4. 模擬授業の振り返り

質問項目

- ①20分でも、一人で模擬授業を実施する意義は大きいと思う
- ②グループ活動であっても、45分実施する方が模擬授業として意味はあると思う
- ③模擬授業を実施して、授業創りのポイントが見えてきたと思う
- ④模擬授業を実施して、授業をすることの楽しさを感じたと思う
- ⑤他の人が実施した模擬授業を通して「授業を観る目」は鍛えられたと思う
- ⑥振り返りのための、ビデオ視聴は自分の授業分析に役に立ったと思う
- ⑦模擬授業を通して、その教科に関する知識や理解が深まったと思う
- ⑧模擬授業を通して、教科指導や授業づくりに関する自らの課題を明確にすることができたと思う
- ⑨模擬授業で学んだ内容は、今後、教育実習や教員になった時に役に立つと思う

5. あなたが、ビデオ視聴を通して検討できたものは何ですか。特に検討できたものを下記の中から3つ選び、番号を書き出して下さい。
1. 授業時の自分の動き
 2. 黒板の使い方
 3. 板書の仕方
 4. 教材・教具の提示の仕方
 5. 話し方
 6. 言葉遣い
 7. 声の大きさ
 8. 発問の仕方
 9. 字の大きさや筆順
 10. 自分の立ち位置
 11. 授業の流れ
 12. その他 ()
6. 模擬授業を体験して学んだ点・良かった点または改善すべき点がありましたら、自由に書いて下さい。

V. 模擬授業の調査結果と考察

授業終了後に平成25年、平成26年ともに授業者全員（各25人）に調査を実施し、全員から回答を得た。4項目の質問に対して4件法で回答してもらった結果が表1～4である。全体的に概ね肯定的な回答であった。

学習指導案については表1に示しているが、とてもあてはまる／あてはまるを回答した者が多く、特にとてもあてはまると回答した項目で、「授業を実施するにあたって、学習指導案作成が重要である」が94%を占めている。さらに「題材目標、到達度目標を明確にすることは重要である」と「本時の授業の流れを検討する際、児童の実態や行動、反応などをイメージしながら作成することは大切である」も重要点として受け止めていることが分かった。

表1. 学習指導案について（割合での表示）

質 問 項 目	とてもあてはまる		あてはまる		少しあてはまる		あてはまらない	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
授業を実施するにあたって、学習指導案作成は重要である	96	92	4	8	0	0	0	0
学習指導案に題材目標、到達度目標を明確にすることは重要である	92	80	8	20	0	0	0	0
学習指導案を作成するにあたり、学習指導要領をよく読むことは大切である	84	76	16	20	0	4	0	0
学習指導案作成後のグループでのシミュレーション実施はあった方がよい	43	68	48	28	9	4	0	0
本時の授業の流れを検討する際、児童の実態や行動、反応などをイメージしながら作成することは大切である	92	96	8	4	0	0	0	0

授業で求められる力として、以下の2点の重要性を学生は得たことが伺える。その一つが授業構想力である。これは、授業計画、学習者の把握、目標の設定、授業構成など授業を実施する前に計画、準備する力である。2つ目が授業展開力であり、授業の実施上、効果的な指導・支援・学習展開や児童の反応を踏まえた対応の必要性など、授業の実施における力が求められているという点である。

教材研究についての結果は表2に示す。50%以上の学生がとてもあてはまると評価した項目が「何を教えなければならないのか」の把握と「どのように教えていくのか」を考えながら教材研究を行ったという2項目である。それに対して「どのような力をつけさせるのか」を明確にして教材研究を行ったについては、とてもあてはまるで30%に満たない結果であった。これは、学習指導案を作成する上で目標を明確にすることの重要性を感じつつも教材研究をする際、方法論、技法論に傾注しやすいことが分かった。基本的に「何のために」「何を教えるのか」という事柄が理解できて初めて、それを「どのように教えて行くのか」について考えていくことになる指導研究法に大きな力を注ぎがちな学

生に対して、教材研究の本来の目的「どんな力をつけさせるのか」を明確にし、教える側が「教える材料としての研究」を行う必要性を体得し、児童不在にならない授業への大切な一歩であることを理解させるべきであろう。

表2. 教材研究について（割合での表示）

質 問 項 目	とてもあてはまる		あてはまる		少しあてはまる		あてはまらない	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
教材研究をする際、「何を教えなければならぬか」を把握して準備した	56	52	32	40	12	8	0	0
教材研究をする際、「どんな力をつけさせるのか」を明確にして準備した	32	24	44	48	24	28	0	0
目標を定めた上で、「どのように教えていくのか」をイメージしながら教材研究をした	64	72	32	28	4	0	0	0
発問・指示・板書・説明など十分吟味した	24	32	68	52	4	16	4	0

模擬授業の実際については表3に示す通りである。いずれの項目も、とてもあてはまる／あてはまるで100%の結果を得た。とてもあてはまるでは特に「授業は児童の目的意識や多様な考えを生みだすために、学習の流れがわかりやすく、児童に理解できるように計画されている事は大切」が最も高い。児童の意欲的・積極的に取り組み、問題意識を持つとともに家庭科という教科の特徴とも言えるが多様なあり方、生き方を見いだすために、児童に見える授業を実施することが模擬授業を通して感じ取っていることが分かる。その結果、「ねらいがはっきりしている」「児童の関心、意欲を高めるための教師の支援の大切さ」の項目が高い割合を占めていると考えられる。

表3. 模擬授業の実際について（割合での表示）

質問項目	とてもあてはまる		あてはまる		少しあてはまる		あてはまらない	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
授業のねらいがはっきりしていることは大切である	100	88	0	12	0	0	0	0
題材の目標に迫っていくために、児童の実態に合った適切な学習課題を提示することは必要である	88	80	12	20	0	0	0	0
児童の目的意識や多様な考えを生み出すために、学習の流れがわかりやすく、児童に理解できるように計画されていることは大切	100	96	0	4	0	0	0	0
児童の関心、意欲を高めるために適切な教師の支援は必要	100	80	0	20	0	0	0	0
授業を通して児童自ら課題を見つけ、解決していくための力をつけさせることは大切	96	84	4	16	0	0	0	0
授業の流れや、時間配分の計画をしっかりと立てることは大切	76	80	24	20	0	0	0	0
授業者としての話し方(声の大きさ、話し方、言葉遣い、目線など)が重要であると思う	88	92	12	8	0	0	0	0
授業者としての態度(身振り、手振りや姿勢)は、児童に影響を与える要因になると思う	80	68	20	32	0	0	0	0

模擬授業の振り返りについての結果は表4に示す。この質問項目では回答者全員が、とてもあてはまると評価したものが「20分でも、一人で模擬授業を実施する意義は大きいと思う」である。それに対して「グループ活動であっても、45分実施する方が模擬授業としての意味はあると思う」の項目が低い評価であるとともに、あてはまらないと回答した学生が22%であった。つまり、一人で学習指導案を作成し、教材研究をなして授業をおこなうことが重要であることを示唆していることが伺える。授業の全体像をつかみ、授業を実施するための一連の流れを通して、授業とは何か、授業として成り立つとはどのようなことか、わかりやすい授業とは何かなど良い授業とは何かを体得し、さらに前進する源動力になっていくと学生は受け止めていると考えられる。これらの

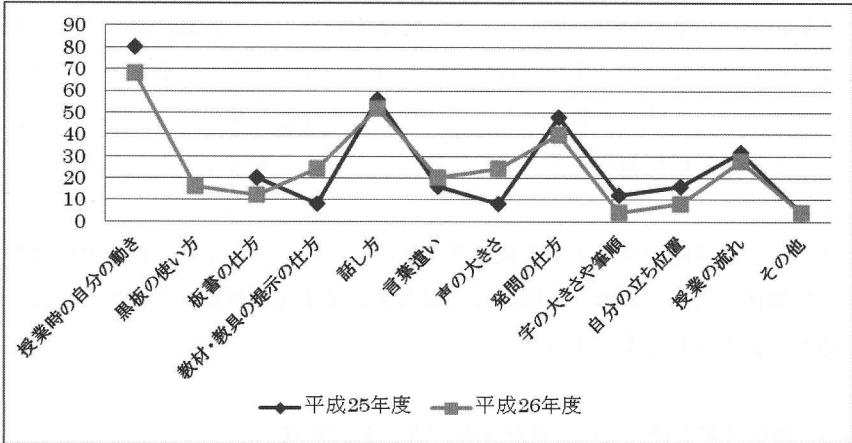
経験を通して、「模擬授業を通して、教科指導や授業創りに関する自らの課題を明確にする事ができたと思う」と答え、さらに「模擬授業で学んだ内容は今後、教育実習や教員になった時に役に立つと思う」と多くの学生が答えたのであろうと推測される。

表4. 模擬授業の振り返り（割合での表示）

質 問 項 目	とてもあてはまる		あてはまる		少しあてはまる		あてはまらない	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26
20分でも、一人で模擬授業を実施する意義は大きいと思う	100	100	0	0	0	0	0	0
グループ活動であっても、45分実施する方が模擬授業として意味はあると思う	8	16	36	24	36	36	20	24
模擬授業を実施して、授業創りのポイントが見えてきたと思う	64	60	32	32	4	4	0	4
模擬授業を実施して、授業をすることの楽しさを感じたと思う	44	32	32	52	24	12	0	4
他の人が実施した模擬授業を通して「授業を観る目」は鍛えられたと思う	64	52	32	32	4	12	0	0
振り返りのための、ビデオ視聴は自分の授業分析に役に立ったと思う	76	68	24	28	0	4	0	0
模擬授業を通して、その教科に関する知識や理解が深まったと思う	52	68	48	32	0	0	0	0
模擬授業を通して、教科指導や授業創りに関する自らの課題を明確にすることができたと思う	84	80	12	20	4	0	0	0
模擬授業で学んだ内容は、今後、教育実習や教員になった時に役に立つと思う	92	92	8	8	0	0	0	0

また、「振り返りのためのビデオ視聴は自分の授業分析に役に立ったと思う」の項目に対しては、とてもあてはまる／あてはまるでほぼ100%であった。ビデオ視聴を通しての検討事項については、検討事項の中から複数回答（3つまでの選択）可として選択してもらった結果を図1に示す。

図1. ビデオ視聴を通しての検討事項（割合での表示）



平成25年、平成26年での割合は異なるものの、自己分析に利用したい優先項目は同じであった。「授業時の自分の動き」「話し方」「発問の仕方」「授業の流れ」を重点的に検討するとともに、それらが学生の課題と感じている項目であると考えられる。教師の言動が児童の学習の妨げとなってはならず、児童の「わかった」「できた」という達成感を得られるための支援方法として位置づけていると思われる。また、そのためには授業のねらいと活動の見通しをもった授業の流れと適切な支援のための発問のあり方を意識して授業を創ろうとする姿勢が伺える。

模擬授業を、行うことによってどのような学びや気づきがあったのかを記述回答で求めた。その記述結果を表5に示す。記述内容を既知の学びを再確認、再評価しているものを「確認・気づき」とし、新たな学びを「学び」として分類した。分類において複数内容の記述については、独立した回答記述として整理した。

「学び」の項目で最も記述件数が多かったのが学習指導に関する項目であった。授業を実施するまでの一連の流れを通して充実した学び感を得ていることが分かる。自分が授業を実施することによる新たな学びを通して、良い授業とは何かを考える機会となっていることを意味するのであろう。感想を含め、模

範的な授業を観察・分析するだけでなく、模擬授業の対象者は児童ではなく同年齢の仲間であったとしても、一人で授業を行うことに意義のあることが記述より明らかになった。また「確認・気づき」に関する記述件数が多いことから一人で実施した模擬授業を通して既知の学びを確認し納得できたことが伺えた。これは学びが模擬授業を一人で実施したからこそ定着したことを意味すると考える。

また、自己課題の気づきの件数も多く見られたが、ここでは課題を今後どのように解決したいのかの記述はされておらず、来年度の教育実習に生かしたいと述べられるにとどまっていた。

表5 模擬授業を通しての「確認・気づき」と「学び」

項目	記述例	確認	学び
教材研究	・授業内容を曖昧のまま授業してはならないことを学んだ。 ・何を伝えたいのか、また伝えるための教材の工夫の必要性を学んだ。		10%
	・教材作りの大変さと伝える難しさに改めて気づいた。 ・教材研究は十分すぎるということはないことを再確認した。	10%	
学習指導	・学習指導案の書き方、授業の創り方、話し方の重要性を学んだ。 ・教師自身が授業内容を十分理解しておくだけでなく、授業の流れ、児童の実態をイメージして準備する必要性を学んだ。		20%
	・児童は考える以上の反応があることをイメージしながら授業準備をする必要性があり、様々な角度からの準備が必要であることを再確認した。 ・授業創りは、先ず児童にどのようなようになってもらいたいのか、最終的に何を学ばせたいのかを明確にする必要がある。	16%	

模擬授業を一人で行う意義	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に授業を一人で行う事により、見えてくる課題や予想とは違う児童の動きや意見があることを感じ、柔軟な授業準備が必要である。 ・個人で授業をすることで、どのような授業準備をすべきか分かった。 	10%	
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで行うと他人任せになることもあるが、一人で実施することですべての責任が自分にあることを認識するとともに、教えることは大きな責任が伴うことを感じた。 ・学習指導案も授業もすべて一人で行うことで実際の教師により近い体験ができ、教育実習に生かせると思った。 	36%	
模擬授業観察と相互評価の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の授業に対する熱意や様々な方法、工夫を観ることができ学ぶことが多かった。 ・仲間の授業を観ることで、良い点、改善点を考えることができ、授業を観る目や授業創りのポイントの見極めが身についた。 	6%	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分では大丈夫だと思っていた授業も、別の目線で見ただけにより、様々な意見があることを知り授業準備に満足してはならないことに気づいた。 ・仲間の授業を参観すると、児童への話し方、態度、授業構成など学ぶことが多く、毎回発見の連続だった。 	28%	
自己課題の発見(DVD視聴を通して)	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDを視聴して、自分の癖、立ち方、立ち位置、板書の仕方にも気づき、客観的に見ることの大切さを学んだ。 ・自己分析の大切さを学んだ。 	4%	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで自覚していなかった自分の課題を見つけ、改善するきっかけとなった。 ・DVDを通して、自分の動きや声の大きさ、発問の仕方、周囲の反応を客観的に見ることで自分の授業の振り返りのために役にたった。 	24%	
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を行うこと、教材研究の楽しさが分かり、教育実習に行くのが楽しみである。 ・20分でも一人で授業を行う意義は大きく、授業創りというのは、完成や限界というものがないのだと思った。 	36%	

VI. まとめと課題

授業を実施するにあたり学習指導案の作成の重要性を理解するとともに、題材目標、到達度目標を明確にすること、本時の授業の流れを検討する際、児童

の実態や行動、反応などをイメージして作成することの重要性を95%以上の学生が感じている。

また、95%の学生が教材研究を行う際、何を教えなければならないか、どのような力をつけさせたいのか、またどのように教えていくのかをイメージしながら教材研究を行い、それが、発問・指示・板書・説明などを十分吟味する結果となっている。模擬授業の実際については、ほとんどの学生が指導のねらいが明確であることが大切であり、授業を通して児童自らが課題を見つけ、解決していくための力をつけられるような授業の実際が大切であること、また授業者の話し方、態度が児童に影響を与える要因となることを感じていた。20分であるが模擬授業を一人で実施する意義を感じるとともに授業創りのポイントや楽しさを体得し、授業を観る目が鍛えられるという結果を得た。これらの結果から、少なくとも時間に関わらず個人で模擬授業を行うことは、授業力を育成する目的を十分果たし得るものと考えられる。初等・中等の教育現場にある教員であっても、自分の授業をより良いものにしていくために授業研究を継続的に重ね、自己研鑽に励んでいるのである。例えば、授業の公開、授業の参観、教材研究を深める、実践記録を残す、児童生徒に授業評価をさせるなどである。これらを考えると、教育実習未経験の学生にとって模擬授業は教員へのモチベーションを高める大きな力にも成っていると考える。

教材研究において「授業は児童の目的意識や多様な考えを生み出すために学習の流れが分かりやすく、児童に理解できるように計画されていることは大切」と考えている学生が多いことから、教科の特徴とも言える多様なあり方、生き方を見出すために授業を計画しようとしていることは確認できた。しかしながら、今回家庭科の独自性を理解した上での実践力を育成する点においては十分に検討するに至らなかった。今後、家庭科の独自性を基に教育実習での振り返りと評価とを関連させながら、さらに家庭科の授業力育成について検討していきたいと考えている。

引用文献

- ①教師の専門的力量と教育実践の課題 P103 2～5行 日本教育方法学会
(2013/10) 図書文化社
- ②論文：教員としての実践的資質能力の有機的統合と形成を促す「教職実践演習」の実施と評価
岸田恵津、別惣淳二、南埜猛、山中一英、石野秀明著 兵庫教育大学
www.hyogo-u.ac.jp/riron/pdf/kishida.pdf
- ③『「聴く」ことの力』(265 - 266 頁) 鷲田清一著 阪急コミュニケーションズ社

論文要旨

Study on effect of teaching home economics teaching ability

YAMAGUCHI Akemi

Abstract

In consider focuses on matters concerning the teaching of the qualities the students wish to elementary school teachers in this study, training of outstanding experience, required to be in school and develop leadership skills.

As a way Solo 20 -Teaching conducted. Which I think it is important to ensure the teachers help all students. Flow teaching (1) lesson plans created poring over textbooks and curriculum (2) creating lesson plans (3) simulation (review of lesson plans) (4) the implementation of teaching. Instructors other than in children or teachers who participated in the mutual evaluation. To determine the effects of simulated teaching everyone conducted survey practice after class.

As a result, Subject objectives and attainment targets to clearly understand the importance of creating lesson plans, as well as the classes will be held, students noticed the importance to create a image of you consider the flow of the class of pupils, action and reaction. In addition, you must teach what you study, or what forces and we want also noticed need to imagine what we teach you how to. From the teaching that the objectives can be clearly important. That lesson is on the force for teaching children their own opportunities and to resolve actual importance. Ensure that factors that affect children's speaking of teaching, attitude and is thought to have learned.

20 minutes alone to conduct teaching is significant and got the results that

is being trained eyes watching classes and learn the point of creating classes and fun.

Keywords : home economics, Ability to teach the class, Elementary school, Outstanding teaching, experience teaching